

日本キリスト教会大阪北教会

2017年3月19日 聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 ヨハネによる福音書17章11節～19節

11 わたしは、もはや世にはいません。彼らは世に残りますが、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください。わたしたちのように、彼らも一つとなるためです。12 わたしは彼らと一緒にいる間、あなたが与えてくださった御名によって彼らを守りました。わたしが保護したので、滅びの子のほかは、だれも滅びませんでした。聖書が実現するためです。13 しかし、今、わたしはみもとに参ります。世にいる間に、これらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らの内に満ちあふれるようになるためです。14 わたしは彼らに御言葉を伝えましたが、世は彼らを憎みました。わたしが世に属していないように、彼らも世に属していないからです。15 わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。16 わたしが世に属していないように、彼らも世に属していないのです。17 真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です。18 わたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らを世に遣わしました。19 彼らのために、わたしは自分自身をささげます。彼らも、真理によってささげられた者となるためです。

《説教》『真理によって聖とされた者』

◆只今ご一緒に歌いました讚美歌484番は、今朝も日曜学校の礼拝でも歌いました。小さい頃から日曜学校に通った人は、この「主われを愛す」を繰り返し歌い、暗唱していると思います。この讚美歌は歌詞が本当によくできています。聖書が私たちに何を語っているのかを1番から4番の歌詞でよく表現しています。「主われを愛す。」これは今日わたしもお話したい聖書のメッセージであります。只今吉元長老がお祈りをなさいましたが、私は途中で何度もアーメン、アーメンと唱えました。聖書が私たちに語ってしてくれることは、今日の週報の中段にもありますように、神様の慈しみ、神様の真実、神差の愛であります。それは、私たちの理解をはるかに越えているものです。週報の中段に今日の礼拝の最初に司会者によって、招きの言葉として読まれた詩篇117篇が記されています。「すべての国よ、主を賛美せよ。すべての民よ、主をほめたたえよ、主の慈しみとまことは永久にわたしたちを超えて力強い。ハレルヤ。」この「主の慈しみとまことは永久にわたしたちを超えて力強い」という訳は、一つの訳です。こうも訳せます。「主の慈しみとまことは、永久に私たちに覆っていて下さる」という訳です。そのようなことで、司会者のお祈りにもありましたように、本当に今、世界は危機の中にある。そのような中で、すべて

の国が主を賛美する。すべての民が主を、神を、ほめたたえる。これはわたしたちの悲願であります。問題は、その神様がどのような御方なのかということです。

◆今日は日曜学校で、宗教改革者、マルチン・ルターが「小福音」と称し、彼は宗教改革の激しい戦いの中で、63歳で亡くなるのですが、亡くなる時もこの御言葉を暗唱しつつ召されて逝ったと言われているのですが、ヨハネによる福音書3章16節ですね。彼はそれを「小福音」言いました。子どもたちに、「ルターがこの御言葉を『小福音』と言ったのだよ」と話しますと、「先生、『小』って何？」聞きますので、「聖書が私たちに伝えたいことは何なのかと言うことを、ルターが発見して、ヨハネ福音書3章16節が、そのことを、ギューッと小さく絞ったものだよ」と説明しました。「神はその独り子をお与えになったほどに世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」。ルターは正に発見者の喜びでこの御言葉に出会ったと思います。これきっかけで宗教改革が今から500年前に起こされて、今年が宗教改革500年の記念の年ということです。

◆私たちはこのヨハネによる福音書を1章からずーっと読み進んでまいりまして、今日の17章の『イエスの祈り』というところに入っているわけですが、私は今日ここを読んでおりまして、「あっ！これがイエス様の生きる姿勢なのだ」と気付いたことがあります。17章全体に、『イエスの祈り』と云う小見出しが付いております。17章における主イエス・キリストのお祈りは、以下の3つです。「御自身のための祈り（1～5節）」、「弟子たちのための祈り（6～19節）」、「弟子たちによって信仰へと導かれる人々のための祈り（20～26節）」です。印刷上も3つの大きな段落に分かれていますね。こういうふうにはイエス様の祈りがあるわけです。今、「あっ！これがイエス様の生きる姿勢なのだ」と気付いたと申しますのは、18章の初めをご覧ください。「こう話し終えるとイエスは弟子たちと一緒にキドロン谷の向こうに出て行かれた」とあります。普通この17章を読みますと、17章全体がお祈りなのですから、「こう祈り終えられると」というふうには、つながるのが自然ではないでしょうか。つまりイエス様は弟子たちに話されます。17章の初めをみますと「イエスはこれらのことを話してから、天を仰いで言われた」とあり、弟子達へのお話から神様へのお祈りに変わっています。そして17章全体がお祈りです、そして18章の初めを見ますと「こう話し終えると、イエスは弟子たちと一緒に、キドロン谷の向こうへ出て行かれた」とあります。ちょっとしたことですが、「あっ！これがイエス様の生きる姿勢なのだ」と思いました。わたしたちは人に話す時と、神様にお祈りする時とは、当然、状況が違うことを意識しますが、イエス様にとっては弟子たちに話すことも、天の神様にお祈りすることも一つの事柄なのだ、ということをご表しているのではないかと。ですか

ら、どのような時も、人の間で生きる時も、それは神様の御臨在のただ中にいるのです。これがイエス様の生活、生きる姿勢だと思いました。それはわたしたちにとっても全く同じであるべきことを示された思いでした。

◆今日の箇所は第2段落の弟子たちのためのお祈りの後半の部分ですが、説教題を『真理によって聖とされた者』と致しました。お気づきのように、17節に「真理によって彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です」と、イエス様がお祈りされているところから取りました。「聖」は聖書の「聖」ですね。他に比べ得るものはない、類書はないとの意味です。比肩すべきものはないという事が「聖」であります。「真理によって彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です」とあります。ですから私たちはイエス様がお語りになり、生きられた真理、真実、そして聖書を通して示された御言葉に本当に捉えられる時に、私達は、比べ得る者は何もない、そういう存在に変えられ、幸いに与った者とされるのであります。

◆ところで皆さんは今年2月7日に大阪城ホールで行われた高山右近の列福式の様子をテレビでご覧になりましたか。1万人からの内外のカトリック信者が集まり、3時間を超える儀式だったようです。「福者」の称号は、敬虔な信仰を生涯貫いたとローマ法王庁が認めた時に与えられます。私たちがその名をよく知っているマザー・テレサ姉は、2003年に「福者」に、そして異例の速さで2016年に「聖人」とされています。私達プロテスタントにとっては「福者」とか「聖人」とかは縁遠いのですが、今日の聖書におけるお祈りにおいて、イエス様はこう祈っておられます。「真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です。わたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らを世に遣わしました。彼らのために、わたしは自分自身をささげます。彼らも、真理によってささげられた者となるためです。」主イエス様は、御言葉を信じる者が漏れなく聖なる者になることをあらん限りの熱心を込めて、神様に祈願しておられるのです。ですから、イエス様の弟子たちに対する祈りは、彼らがおれなく「聖者」になること、何ものにも比べることのできない幸い、救いに与る者となることを求めておられるのです。

◆もう一度17、18節を御覧ください。「真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です。わたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らを世に遣わしました。彼らのために、わたしは自分自身をささげます。彼らも、真理によってささげられた者となるためです。」こうイエス様は祈っておられます。これまでも折に触れ申して来ましたが、旧約聖書のヘブライ語には「並行法」という表現法があります。それは前の行で言った内容を次の行では違う言葉で表現するのです。違う表現なのですが、それ

は前に言ったことの解説なのです。時には反対を言うこともあります。正にこの17節、18節はその並行法です。前は、「真理によって聖なる者としてください」で、後は、「真理によってささげられた者となるためです」とあります。

◆この後18章では、イエス様は、裏切られ、逮捕されて、十字架に架けられます。そういうぎりぎりのところで、イエス様はこのお祈りをされ、御言葉を語っておられるわけですから、これは文字通りイエス様の遺言と言えは遺言ですね。「私は自分自身を彼らのために捧げます」。ですから「聖なる者」は詰めれば「聖者」であり、それは「さげられた者」、「献身者」です。自分自身を神様の御心が地に成るために、また人々の幸いと救いのために、捧げ切る人、それが「聖者」であり「献身者」であります。これが並行法です。まだほかにもあります。18節「父なる神よ、あなたがわたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らを世に遣わしました」。イエス様が神様から遣わされ、この上ない御業を為さいました。本当に世の救いのために身を献げ切るという御業を為さって下さったのです。そのイエス様が、「わたしも彼らを世に遣わしました」と祈られるのです。イエス様がそうであられたように、弟子達もイエス様の全てに与る者となる事、これも聖なる並行法なのです。私達信仰者のレベルがイエス様と同レベルである事を、イエス様ご自身が望んでおられるということです。

◆イエス様は地上の歩みの最後で祈られました。「真理によって彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です。わたしを世にお遣わしになったようにわたしも彼らを世に遣わしました。彼らのためにわたしは自分自身を奉げます。」イエス様の御生涯の歩みと、私達の日々の歩みが一つであることをイエス様は切に願っておられるのです。「聖者」とか「献身」と言われると、尻込みをしなくなるわけですがけれども、イエス様はその様な、レベルの低い謙遜は望んでおられないということです。弟子達が信者となり、聖者となり、献身者となって、主に従う者として生きることを本当にイエス様は望んでおられるのです。このイエス様の切願を、真面目にわがこととして受け止め、各自、天からの使者として、これからの日々を歩みたく思います。

◆お祈りいたします。恵みとまことに満ちておられる主イエス・キリストの父なる神様。あなたの御愛により、今日の日まで守られて歩むことを許され感謝いたします。しかし、わたしたちの歩みは世俗的なものとなって、御心から遠い者であったことを、今思い知らされ懺悔いたします。どうか御心に適う者とならしめてください。そしてこの混乱した時代のただ中であなたによる平和が地に成るために身を献げる一人一人としてください。この祈りイエス様のみ名を通しみ前にお捧げいたします。アーメン。